

平成 30 年度

大学院獣医生命科学研究科応用生命科学専攻博士後期課程
一般選抜、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜

学 生 募 集 要 項

日本獣医生命科学大学

NIPPON VETERINARY AND LIFE SCIENCE
UNIVERSITY

平成 30 年度

日本獣医生命科学大学大学院獣医生命科学研究科

応用生命科学専攻博士後期課程学生募集要項

1. 教育上の目的、アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

■教育上の目的

応用生命科学専攻博士後期課程は、生命科学新時代の開拓者として必要な、先端的で高度な知識と技術能力を備えた動物及び食品科学の高度の専門職、教育者並びに研究者を育成する。

■アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

応用生命科学専攻博士後期課程は、生命科学新時代の開拓者として必要な、先端的で高度な知識と技術能力を備えた動物および食品科学の高度の専門職、教育者ならびに研究者を育成するために、次のような人材を求めている。

- ・幅広い視野と応用生命科学の専門分野を学ぶための十分な基礎知識と国際的な視点を有し、かつ高い倫理性を身につけた人
- ・動物科学または食品科学の高度な研究を通じて、社会の発展に貢献するという意識の高い人
- ・動物科学または食品科学の専門的な研究に対し、自立して研究活動を推進する意欲がある人

2. 募 集 人 員

専 攻	募 集 人 員
応用生命科学	2 名

3. 専門分野及び研究指導分野

専門分野	研究指導分野
応用生命科学分野	動物資源生産科学
	動物機能学
	食品機能開発学
	応用食品化学
	生命共生社会システム学

〔注意事項〕

- ① 詳細は付表の「専門分野の概要」及び「研究指導分野一覧」を参照して下さい。
- ② 出願に際しては、希望する研究指導分野の指導教員（指導教員については付表 2 の「研究指導分野一覧」に記載）と事前に相談し、その指導を受けて下さい。

4. 出 願 資 格

次の各号の一に該当する者とする。

【一般選抜・社会人特別選抜＜一般・長期＞・外国人留学生特別選抜】

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び修士の学位又は専門職学位を平成 30 年 3 月 31 日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成 30 年 3 月 31 日までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成 30 年 3 月 31 日までに授与される見込みの者
- (4) 文部科学大臣の指定した者（平成元年 9 月 1 日文部省告示第 118 号）
- (5) 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達した者
- (6) 本学の大学院において第 1 号に該当する者と同等以上の学力があると認めた者

〔社会人特別選抜＜一般・長期＞における注意事項〕

- (1) 職業を有し、就業している者（自営業、臨時雇用（単発的なものを除く。）を含む。）で、著しく学習時間の制約を受けるもの
- (2) 入院、療養、出産、長期出張、海外留学等の事由を除く、その他やむを得ない事情を有すると学長が認めた者
- (3) 上記出願資格の所定の条件を満たした後、原則として 2 年以上官公庁・企業等に在職していることを必要とする。ただし、在職中でない志願者及び出願資格の(4)(5)(6)による志願者は、あらかじめ本研究科と協議のうえ、出願資格を確認する必要がある。
※長期履修学生の詳細については、p.5 以降を参照してください。
(※出願を希望する者は、あらかじめ志望する研究指導分野の担当教員の了解を得て下さい。)

5. 願 書 受 付 期 間

第 1 次募集	平成 29 年 9 月 1 日（金）～ 9 月 11 日（月）
第 2 次募集	平成 30 年 2 月 1 日（木）～ 2 月 13 日（火）

〔注意事項〕 窓口受付時間：平日（月曜～金曜）午前 9 時から午後 5 時まで
ただし、日本獣医生命科学大学入試日 2 月 5 日及び 6 日を除く。

6. 出 願 手 続 等

- (1) 出願書類は一括して、検定料 20,000 円（現金又は郵便為替）を添え、本学大学院課へ提出して下さい。
- (2) 出願書類等

出 願 書 類 等		摘 要	提出部数
1	入 学 願 書	本学所定用紙	1 部
2	写 真 票	本学所定用紙（カラー写真） 上半身脱帽で、出願前 6 ヶ月以内に撮影した縦 4cm×横 3cm の裏に氏名を記入して、全面糊付けして下さい。	1 部

3	受 験 票	本学所定用紙	1 部
4	卒業（見込）証明書等	出身大学及び大学院	各 1 部
5	成 績 証 明 書	出身大学及び大学院 ・外国語の場合は必ず日本語の訳文を添付して下さい。	各 1 部
6	履 歴 書	本学所定用紙 写真については、カラー写真で上半身脱帽、出願前 6 ヶ月以内に撮影した縦 4cm×横 3cm の裏に氏名を記入して全面糊付けして下さい。学歴記入の欄については、高等学校入学から記入して下さい。	1 部
7	志 望 理 由 書	本学所定用紙 大学院で勉強・研究を行いたいと考えた動機及び目的を記載したもの。	1 部
8	研 究 計 画 書	本学所定用紙 大学院で研究しようとするテーマ及び内容を記載したもの。 ・学術雑誌への公表論文、各種機関や企業等の報告書及び学会発表要旨等を添付することができます。	1 部
9	業績報告書又は小論文 (社会人＜一般・長期＞・ 外国人留学生 特別選抜のみ提出)	本学所定用紙 小論文においては A4 判にて、1,000 文字程度にまとめて下さい。また、英文においては 500 語程度でまとめて下さい。	1 部
10	指 導 承 諾 書	本学所定用紙 本学の指導教員が直接記入のうえ厳封したもの。	1 部
11	長期履修学生申請書 (社会人特別選抜＜長期＞ のみ提出)	本学所定用紙 本学の指導教員の意見を直接記入してもらうこと。	1 部
12	※社会人入学推薦書 (社会人特別選抜 ＜一般・長期＞のみ 提出)	本学所定用紙 出身大学の指導教員又は、官公庁、企業等の直接の指導者が作成したもの。	1 部
13	※社会人受験承諾書 (社会人特別選抜＜長期＞ のみ提出)	本学所定用紙 官公庁、企業等の直接の指導者が作成したもの。	1 部

※印は官公庁、企業等に在職のまま入学しようとする者は、必ず提出して下さい。

〔注意事項〕

- ① 官公庁、企業等に在職のまま入学しようとする者は、入学手続きの際に、所属長又は代表者の「入学承諾書」を必要とするので、あらかじめ承知しておいて下さい。
- ② 外国人留学生は、上記出願書類に加え、住民票・日本語の学力を表す証明書・修士論文の要旨又はこれに代わるものを提出して下さい。

7. 入学者選抜方法

(1) 一般選抜

学力(筆記)試験〔英語(英文和訳 ※辞書持込不可)、専門科目(研究指導分野 1科目)〕、面接、成績証明書の内容を総合して行います。

(2) 社会人特別選抜<一般・長期>

面接、推薦書、成績証明書、業績報告書又は小論文の内容を総合して行います。

(3) 外国人留学生特別選抜

原則として、一般選抜と同じ試験を行います。ただし、特別の事情がある場合は、一般選抜と異なる試験を行うことがあります。

〔注意事項〕

研究指導分野の専門試験科目等、その詳細については付表の「研究指導分野一覧」を参照して下さい。

8. 試験日時及び試験場

試験日		時間		試験場
第1次	第2次			
平成29年 10月4日(水)	平成30年 3月5日(月)	学力試験	10:00~12:00	本学 第一校舎
		面接試験	14:00~	

9. 合格発表

第1次 平成29年10月6日(金) 午前10時

第2次 平成30年3月7日(水) 午前10時

本学の大学院掲示板に掲示するとともに、合格者については本人宛に通知します。なお、電話等による照会には一切応じません。

10. 入学手続

入学手続の詳細については、合格通知書とともに郵送する「入学手続方法について(博士後期課程)」を参照して下さい。

(1) 入学手続期日

第1次 平成29年10月6日(金) ~ 平成29年10月20日(金)

第2次 平成30年3月7日(水) ~ 平成30年3月16日(金)

(2) 提出書類

① 住民票(本籍記載のあるもの)又は住民票記載事項証明書 1部

② 保証書 1部

③ 修了証明書 1部

④ 写真(カラーで上半身・脱帽正面 縦3cm×横3cm) 2葉

⑤ 入学承諾書

(社会人特別選抜制度<一般・長期>による入学者のみ提出) 1部

(3) 納入金

【一般】

(イ) 入学金 200,000円(本学出身者は免除)

(ロ) 授業料 680,000円

(ハ) 実習費 150,000円

(ニ) 厚生福利費 15,000円(初年度のみ)

※長期履修学生については、p.5以降を参照してください。

〔注意事項〕

【一般】

納入金は、原則として年額を一括納入することとします。ただし、授業料及び実習費は、前期、後期の2期に分けて納入することができます。

【長期】

本学出身者及び獣医生命科学研究科委員会の議を経て、学長が特別の事情があると認めた者は、入学金の徴収を免除します。また、納入金は、原則として毎年定められた年額を一括納入することとします。ただし、授業料及び実習費は、前期、後期の2期に分けて納入することができます。

11. 入 学 辞 退

入学辞退による授業料等納入金の返還について

入学手続を完了した後に入学を辞退する場合は、入学金を除く納入金を返還します。

ただし、入学辞退による納入金の返還請求期限は、平成30年3月31日（土）午後4時までとします。

12. 奨 学 金 制 度 等

- (1) 大学院アシスタントシップ（ティーチングアシスタント）制度があります。（審査あり）

平成29年度採用実績 0名

- (2) 大学院学生に対する日本学生支援機構の奨学金制度があります。（審査あり）

〔注意事項〕

長期履修学生については、大学院アシスタントシップ（ティーチングアシスタント）制度を利用することはできません。

13. 長期履修学生制度について

- (1) 長期履修学生制度とは

長期履修制度とは職業を有し、就業している等の事情により修学困難な者に対して、標準修業年限（獣医学専攻博士課程4年、獣医保健看護学専攻博士後期課程及び応用生命科学専攻博士後期課程3年）の延長且つ、授業料負担の軽減（単年度毎）を目的とした制度です。

- (2) 申請資格

長期履修が認められる者は、次のいずれかに該当するものとします。

- ① 職業を有し、就業している者（自営業、臨時雇用（単発的なものを除く。）を含む。）で、著しく学習時間の制約を受けるもの
- ② 入院、療養、出産、長期出張、海外留学等の事由を除く、その他やむを得ない事情を有すると学長が認めた者

- (3) 長期履修期間及び在学年限

長期履修期間及び在学年限は、獣医学専攻博士課程にあつては8年以内、獣医保健看護学専攻博士後期課程及び応用生命科学専攻博士後期課程にあつては6年以内となります。

- (4) 長期履修学生制度に係る納入金等

本学出身者及び獣医生命科学研究科委員会の議を経て、学長が特別の事情があると認めた者は、入学金の徴収を免除します。また、納入金は、原則として毎年定められた年額を一括納入することとします。ただし、授業料及び実習費は、前期、後期の2期に分けて納入することがで

きます。ただし、長期履修期間の変更が認められた場合は、授業料及び実習費を再計算することになります。

種 別	金 額			長期履修期間	金 額	
	長期履修期間	獣医学専攻	獣医学専攻		獣医保健看護学専攻 応用生命科学専攻	獣医保健看護学専攻 応用生命科学専攻
		博士課程	博士課程		博士後期課程	博士後期課程
		初年度	次年度以降		初年度	次年度以降
入学検定料		20,000 円			20,000 円	
入 学 金	5 年	200,000 円		4 年	200,000 円	
授 業 料		年額 544,000 円	年額 544,000 円		年額 510,000 円	年額 510,000 円
実 習 費		年額 120,000 円	年額 120,000 円		年額 112,500 円	年額 112,500 円
入 学 金	6 年	200,000 円		5 年	200,000 円	
授 業 料		年額 470,000 円	年額 450,000 円		年額 408,000 円	年額 408,000 円
実 習 費		年額 100,000 円	年額 100,000 円		年額 90,000 円	年額 90,000 円
入 学 金	7 年	200,000 円		6 年	200,000 円	
授 業 料		年額 392,000 円	年額 388,000 円		年額 340,000 円	年額 340,000 円
実 習 費		年額 90,000 円	年額 85,000 円		年額 75,000 円	年額 75,000 円
入 学 金	8 年	200,000 円				
授 業 料		年額 340,000 円	年額 340,000 円			
実 習 費		年額 75,000 円	年額 75,000 円			

(5) 長期履修期間の変更

- ① 延長を希望する場合は、入学願書提出時に申請した修了予定日の1年3月前までに願い出てください。
- ② 短縮を希望する場合は、修了希望日の1年3月前までに願い出てください。ただし、標準修業年限より短縮することはできませんので、ご注意ください。なお、短縮することによって生じた授業料等の差額は、短縮が決定した年度内に納入することとなります。
- ③ 長期履修期間の変更は、長期履修期間変更申請書に必要書類を添えて研究科長に願い出てください。なお、変更は、年単位で、在学中1回限りとし、研究科委員会の議を経て、学長が許可することとします。
- ④ 長期履修学生として認められた者は、在学中に事由が消滅した場合でも修了するまで長期履修学生として在籍することとします。

(6) 注意事項

- ① 長期履修学生は、大学院アシスタントシップ（ティーチングアシスタント）制度を利用することはできません。
- ② 長期履修期間は、年単位で申請することとします。

14. 日本獣医生命科学大学大学院長期履修学生に関する要項

(趣旨)

第1条 この要項は、日本獣医生命科学大学大学院（以下「本学大学院」という。）学則第5条の2の規定に基づき、長期履修学生に関する必要な事項を定めることを目的とする。

(申請資格)

第2条 長期履修が認められる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- (1) 職業を有し、就業している者（自営業、臨時雇用（単発的なものを除く。）を含む。）で、著しく学習時間の制約を受けるもの
- (2) 入院、療養、出産、長期出張、海外留学等の事由を除く、その他やむを得ない事情を有すると学長が認めた者

2 長期履修学生を受け入れる本学大学院の研究科及び課程は、次のとおりとする。

- (1) 獣医生命科学研究科獣医学専攻博士課程
- (2) 獣医生命科学研究科獣医保健看護学専攻博士後期課程
- (3) 獣医生命科学研究科応用生命科学専攻博士後期課程

(申請手続)

第3条 入学を志願する者で長期履修学生となることを希望するものは、入学願書提出時に長期履修学生申請書に次に掲げる書類を添えて、学長に願い出なければならない。

- (1) 第2条第1項第1号に該当する者は、在職証明書又は在職していることが確認できる書類
- (2) 第2条第1項第2号に該当する者は、当該事実又は事情を証する書類
- (3) その他大学院獣医生命科学研究科長（以下「研究科長」という。）が必要と認める書類

(許可)

第4条 前条の申請については、獣医生命科学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）の議を経て、学長が許可する。

2 長期履修を許可した場合は、入学許可書により通知する。

(長期履修期間及び在学年限)

第5条 長期履修学生として標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを認められる期間（以下「長期履修期間」という。）は、年単位とし、博士後期課程にあつては6年以内、博士課程にあつては8年以内とする。

(授業料等)

第6条 授業料等の年額は、本学大学院学則第44条第1項に定める授業料及び実習費を加えた総額を、長期履修期間で分割して納入することとする。ただし、本学大学院学則第5条の2第1項に基づき長期履修期間の変更が認められた場合は、授業料及び実習費を再計算する。

2 長期履修学生に係る学納金は、本学大学院学則第45条第2項に定めるとおりとする。

(履修計画)

第7条 長期履修学生の授業科目の履修については、指導教員から十分な指導を受け、計画的に柔軟な履修計画を立てるものとする。

(長期履修期間の変更)

第8条 長期履修期間の変更は、次のとおりとする。

- (1) 延長を希望する場合は、入学願書提出時に申請した修了予定日の1年3月前までに願い出なければならない。
- (2) 短縮を希望する場合は、修了希望日の1年3月前までに願い出なければならない。ただし、標準修業年限より短縮することはできない。
- 2 長期履修期間の変更は、長期履修期間変更申請書に必要書類を添えて研究科長に願い出なければならない。
- なお、変更は、年単位で、在学中1回限りとし、研究科委員会の議を経て、学長が許可する。
- 3 長期履修学生として認められた者は、在学中に事由が消滅した場合でも修了するまで長期履修学生として在籍することとする。

(長期履修の許可の取消し)

第9条 長期履修学生が本学大学院学則、若しくは諸規程に違反したとき、又は長期履修に関し虚偽の申請をしたときは、学長は、研究科委員会の議を経て、長期履修の許可を取り消すことができる。

(その他)

第10条 その他この要項に定めるもののほか、長期履修学生に関し必要な事項は、研究科委員会の議を経て学長が行う。

(準用規定)

第11条 長期履修学生については、この要項に定めるものを除くほか、日本獣医生命科学大学大学学則及び本学大学院学則を準用する。

(規則の改廃)

第12条 この要項の改廃は、研究科委員会の議を経て学長の決裁を必要とする。

附 則

この要項は、平成27年10月1日から施行する。

15. 個人情報について

日本獣医生命科学大学は、本学に対する入学試験関連資料の請求や進学説明会等におけるアンケート等の回答において入手した氏名・住所等の個人情報については、大学案内・入学試験要項・その他関連資料等の発送や本学の入学試験関連データの収集ならびに検討資料作成のために利用します。

また、入学試験出願に際しての氏名・住所・学業成績その他の個人情報については、本学入学試験実施に際しての資料作成・可否の判定・入試統計資料の作成等、出願から入学手続き、新年度の準備に至る作業を行うために利用します。

これらについては、一部、本学より、正当な利用目的の範囲内において個人情報に係る業務の処理を学外者に委託することがありますので、あらかじめご了承ください。本学は、この業務委託先とは個人情報の保護に関する契約を締結し、業務委託先に対して適切な管理を行います。

本学では、これら入試広報及び入学試験業務において入手した個人情報について、その利用目的以外に使用することはありません。

16. 試験会場案内

日本獣医生命科学大学（本学）

〒180-8602 東京都武蔵野市境南町 1-7-1

TEL 0422-31-4151（代表）

●JR 中央線「武蔵境」駅南口より徒歩 2 分

<http://www.nvlu.ac.jp/access/access.html/>



17. 問い合わせ先

〒180-8602 東京都武蔵野市境南町 1-7-1

日本獣医生命科学大学 大学院課入試係

TEL : 0422-31-4151（代表）

FAX : 0422-33-2094（代表）

E-mail : gakushin@nvlu.ac.jp

URL : <http://www.nvlu.ac.jp/>

獣医生命科学研究科応用生命科学専攻専門分野の概要

専門分野	研究指導分野	概 要	構成教室／研究室
応 用 生 命 科 学 分 野	動物資源生産科学	本分野は動物の生産と資源利用の分野からなり、肉牛、乳牛、家禽、実験動物などの動物の栄養生理、物質代謝、エネルギー代謝、生産性、生産病、食品安全性の確保などに関する課題について、本学学術研究機関の設備を含んだ最先端の技術と設備を活用して研究する。実際の産業動物を用いた高度技術習得のために、海外や国内の研究機関や産業界との交流研究も行う。理論の構築と成果のまとめ方、発表方法を体得し、研究成果を論文として完成させる。応用生命科学分野で創造的に活躍できる人材を養成する。	動物生産化学教室 動物遺伝育種学教室
	動物機能学	動物の成長、繁殖、環境適応等の生体機能の内分泌系、神経系、免疫系ならびに生殖機能系による分子、細胞、個体レベルでの調節機構を解明するため、遺伝子工学、細胞工学の手法を用いて研究を行う。そのため、関連する分野の最先端の知見が掲載されている論文を取り上げ、その内容について討議、考察を行い、研究の立案、遂行に必要な知識を修得させる。また、研究の遂行にあたって生じる問題点の解決法について討議を行い、研究成果を論文として完成させる。応用生命科学分野で創造的に活躍できる人材を養成する。	実験動物学教室 動物生殖学教室 動物生体防御学教室
	食品機能開発学	食品および食品素材が有する加工特性、食味特性、生体調節特性に着目し、高品質の食品創製を目指す課題を実施する。本分野では、食品の咀嚼中の味成分溶出や香気成分放散の解明および嚥下機能との関係、食品殺菌加工後の食品の物性変化のメカニズム解明、さらには、食品摂取後の腸内細菌叢の構成や食品の機能を解明し、プレ（プロ）バイオティックスの腸内環境に及ぼす影響などに関連する高度な教育と研究を行う。その成果を論文として完成させる。応用生命科学分野で創造的に活躍できる人材を養成する。	食品衛生学教室 食品工学教室

応 用 生 命 科 学 分 野	応用食品化学	動物性ならびに植物性食品の栄養性、嗜好性、機能性に関与する食品成分の構造と機能に係わる化学的研究およびそれら成分の消長・変化に係わる合成・分解酵素に関する酵素科学的研究を中心に研究課題を与える。また、進化工学的手法による機能性タンパク質の機能解析及びその遺伝子工学的生産系開発に関する研究課題を与える。食品の安全性に関わる物質の分析と生理作用や動態の解明に関する研究課題を与える。実際の研究内容に対する深い洞察力を養い、実験方法や実験結果および考察などの十分な討議を通して、研究成果を論文として完成させる。応用生命科学分野で創造的に活躍できる人材を養成する。	食品化学教室 農産食品学教室 食品バイオテクノロジー教室 食品安全学教室
	生命共生社会システム学	本分野は社会科学的な分析手法を用いることを軸に、食料自然共生経済学分野と動物産業に係るシステムマネジメント分野に分けられる。前者は、「食と農、そして自然と動物が共生できる新しい豊かな社会の創造」を基本理念として有機農業や動物福祉に配慮したフードシステムの開発、自然環境管理や野生生物との共生、ヒトと動物との関係性に着目した自然共生型社会システム構築に係る総合研究を展開する。後者は動物関連産業において、その生産から販売・消費までの過程を一つの継続したシステムとして捉え、当該システムにおける諸課題を農業経営学の視点からアプローチする。本分野ではフィールドにおける調査研究が主体となり、ここから得られた研究成果を論文として完成させる。応用生命科学分野で創造的に活躍できる人材を養成する。	システム経営学教室 食料自然共生経済学教室

研 究 指 導 分 野 一 覧

専門分野	研究指導分野	専門試験科目	指導教員氏名（所属教室）	研 究 内 容
応用生命科学分野	動物資源生産科学	動物生産化学	太田 能之（動物生産化学教室）	栄養素の効果と作用機序とを明らかにし、動物飼育現場での応用技術を開発することまでを目標とする。
		動物遺伝育種学	古田 洋樹（動物遺伝育種学教室）	発生工学・分子遺伝学的手法を用いた遺伝資源の利用とその生理機構に関する研究
	動物機能学	実験動物学	藤平 篤志（実験動物学教室）	肥満およびストレス反応の内分泌機構に関する研究
		動物生殖学	牛島 仁（動物生殖学教室）	生殖工学を用いた哺乳動物の受精・発生機構の解明に関する研究
		動物生体防御学	有村 裕（動物生体防御学教室）	アレルギーや自己免疫疾患の原因や発症機序を探る研究
	食品機能開発学	食品衛生学	藤澤 倫彦（食品衛生学教室）	腸内細菌の機能に関する研究
		食品衛生学	大橋 雄二（食品衛生学教室）	腸内細菌と宿主の栄養生理・免疫機能の関係
		食品工学	小竹 佐知子（食品工学教室）	香気成分放散ならびに調味料成分拡散
	応用食品化学	食品化学	松石 昌典（食品化学教室）	食品のおいしさ原因成分とその生成機構の解明ならびにそれらの応用に関する研究
		農産食品学	中山 勉（農産食品学教室）	植物性食品の成分分析およびその生理機能解析
		食品バイオテクノロジー	渋井 達郎（食品バイオテクノロジー教室）	遺伝子工学的手法を用いたタンパク質の機能解析・改変と食品への応用に関する研究
		食品安全学	吉田 充（食品安全学教室）	食品の安全性に関わる物質の分析と生理作用や動態の解明
	生命共生社会システム学	システム経営学	小澤 壯行（システム経営学教室）	産業動物を中心とした永続的畜産システム構築に関する研究
		食料自然共生経済学	植木 美希（食料自然共生経済学教室）	食・農・自然・動物共生型社会の構築とそのシステム開発に関する研究